

# 校長の 独りの言



先日、福井駅近くの交番前で、白い粉を警官に分かるように落とし、走って逃げる動画を投稿したユーチューバーの事件が新聞で取り上げられていました。子どもにとって、悪い大人のモデルがいるものだなあと思いました。テレビでは、最近、子どもの入店禁止の飲食店が増えてきたことを話題にしています。ある店では、子連れのお客さんが帰った後、障子が破れていて、破れた障子紙が、花瓶の後ろに隠すように置いてあったことから、子どもを入店禁止にしたそうです。ある店では、子どもが食器を割ったにもかかわらず、一緒にいた大人が、子どもだから食器を割るのは当然という態度でいたことから、子どもを入店禁止にしたそうです。

これって、子どもの問題ではなく、身近にいる大人の問題ではないかなと思いました。子どもですから、興味から触ってはいけないものを触ってしまったり、調子に乗ってものを壊してしまったり、と言っことはあります。そんな時、身近にいる大人が、どんな態度をとるかが大切ではないかと思えます。少なくとも、子どもの入店禁止の原因を作ったのは大人であり、子どもにとって良い大人のモデルとは言えないなあと思えます。

八〇歳を過ぎた私の母から、「お前が小さい頃、銀行の窓口で手続きをしていたら、銀行のシャッターが閉まり始めて、行員が慌てて子どもにも駆け寄って行った。見ると、あんたがシャッターを閉めるボタンを押して遊んでいた。びっくりして、平謝りに謝った。」と言っ話をよく聞かされます。間違ったことをしたり、良くないことをしたりしたら、すぐに謝る。私の身近に良い大人のモデルがいて良かったなあと思っています。自分が親として、教員として子ども達にとって良いモデルになれているか、常に矢印を自分に向けて生活していかなければと思えます。ただ、銀行でそんな悪いことをした記憶が、私には無いのですが……。

「一輪車パレード」。今富小学校に受け継がれている素晴らしい伝統です。



文責：山名 聡

『ケイトウ（鶏頭）』です。奈良時代には既に日本に伝わっており、頑丈で育てやすく、葉や花は食べられるので、食用も兼ねて日本では古くから栽培されていたそうです。雄鶏の赤いトサカのような花の形から『ケイトウ（鶏頭）』の花名になりました。

燃えるような真っ赤な花姿や意気揚々と咲く様子から、花言葉は「おしゃれ」です。おしゃれは漢字で「御洒落」と書き、「戯れ（され）」が転じた言葉だそうです。「戯れ（され）」には、機転が利き、気が利くという意味があります。北朝鮮の動きが活発になり、国際情勢は先行き不安な状況になってきています。今富っ子には、文化の違いや考え方の違いはあっても、機転を利かせ、気の利いた対応が常にできる社会人に育てて欲しいなあと思えます。

小浜市立今富小学校  
平成 29年9月12日  
= 9 月 号 =

# 今富っ子



## 子どもがモデルになる 体育大会を目指して



先日の体育大会では、たくさんの保護者のみなさんに足を運んでいただき、ありがとうございました。子ども達のイキイキとした顔、キラキラと輝く瞳、ドンドンと流れる汗。学年相応に子ども達はよく頑張っていたなと感じました。今年の体育大会ですが、今年度の学校経営計画に掲げた「子どもがモデルとなる学校」づくりを受け、「子どもがモデルになる体育大会を目指す」と、体育主任から運営方針が出されました。

そして、指導の在り方について共通理解を図り、指導にあたりました。

例えば、縦割りの種目（クルクル回転棒リレー・大玉ころころ合戦・ラッキーボールでワイワイ玉入れ・四色対抗リレー）では、昨年までは教員が行っていた競技方法の説明や練習の進行を、六年生が中心になって行うと変更しました。事前に担当教員が六年生と打ち合わせし、教員は練習の様子を見守り、練習終了後、教員と六年生とで振り返りを行う。改善点があれば次回の練習に生かすように指導するとしました。

大会運営の係活動でも、担当教員と六年生が事前に打ち合わせを行い、六年生が自分の役割を理解して五年生に伝えるようにしました。

また、応援合戦では、六年生が夏休み中に集まって応援内容を決め、八月二十九日の四・五・六年登校日に、六年生から四・五年生に応援内容を伝えました。そして、九月からの全体練習では、六年生だけでなく、四・五年生も協力して、低学年の指導にあたるようにしました。ここでは、教員は練習の様子を見守り、応援練習終了後、教員と六年生で振り返りを行う。改善

点があれば次回の練習に生かすよう指導しました。

低学年へは、上級生の動きで良いところを伝え、モデルとして示してあげたり、頑張ることの素晴らしいさを教えたりしました。

このように、子ども達が「自分たちで大会を動かし、仲間と共に創り上げた」という実感が得られるようにと考え、取り組みました。

しかし、口を出さずガマンして「見守る」ということが教員にはなかなかできず、ついつい指導したり、指示を出したりしてしまうことがあります。見守る「については、研修を積んでいかなければと考えています。

そんな中、六年生は様々な困難を乗り越え、成長してくれたと思います。その成長の一端が、一輪車パレードや応援合戦に表れていたと思っています。五年生は、六年生の頑張る姿を身近で見ながら、来年の自分の姿を重ね合わせていたのではないかと思います。閉会式終了後に行った色別の振り返りでは、五年生から六年生への感謝の言葉や来年に向けた決意の言葉が聞かれました。五・六年生が係の仕事でテントを留守にしている間、四年生が中心となって応援している姿に、高学年としての自覚が芽生えつつあると、嬉しく思いました。一・二・三年生には、高学年のこの姿が良いモデル・憧れとして、記憶に残って欲しいと思います。

このような思いが詰まった今年の体育大会でしたが、保護者のみなさんは、どのように感じにいられたでしょうか？  
ご意見・ご感想をお聞かせください。



ご意見・ご感想をお聞かせください。

〈キリトリセン〉

お名前 ( )

---



---



---



---